

水稻の生育状況と今後の管理対策（第5号）

令和8年7月9日
新潟県農林水産部

- ◎ コシヒカリの生育は早まっており、幼穂形成期に達しているほ場もあります。
- ◎ コシヒカリでは、葉色が低下しているため、穂肥^{*1} 診断を行い、適切に穂肥を施用しましょう。
- ◎ 水管理については、中干し^{*2}以降は飽水管理^{*3}を行いましょう。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

*2 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

〔7月8日現在の県内全域の生育概況〕

【指標値（生育のめやす）に比べた生育状況】

- コシヒカリ：草丈「並」、茎数「並」、葉数の進み「やや早い」、葉色「淡い」
※ 県調査ほの半数で既に幼穂形成期となっています。
- 新之助：草丈、茎数、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月2日発表の北陸地方1か月予報（7月4日から8月3日）は、平均気温は高く、降水量、日照時間ともほぼ平年並と予想されています。
- コシヒカリの幼穂形成期及び出穂期は平年より早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

穂肥施用

<コシヒカリ>

- 出穂期が平年より早まると予想されていることから、早めに幼穂を確認しましょう。特に、5月中旬までに移植したほ場は直ちに幼穂を確認しましょう。
- 幼穂形成期以降の葉色が大きく低下すると品質に影響を及ぼすことから、穂肥診断を行い、葉色を維持しましょう。（次ページおよび補足資料を参照）。
- 全量基肥施肥体系においても、葉色低下を防ぐため、出穂期10日前頃に葉色が淡い場合は追加の穂肥を施用しましょう。

<新之助>

- 葉色が大幅に低下し、栄養凋落が懸念される場合は、穂肥前につなぎの施肥を検討してください。

<早生品種>

- 収量・品質を確保するため、2回目（出穂14日前頃）の穂肥を確実に施用してください。

水管理

- 中干し後は、飽水管理を出穂期25日後まで継続し、根が養水分を吸収しやすい状態を維持しましょう。
- 用水が地域全体に行き渡るよう、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めましょう。

病虫害防除

- 県内で葉いもちの発生が確認されています。いもち病に弱い品種で葉いもちの発生を確認した場合は、生育時期に応じて、葉いもちあるいは穂いもちの予防防除をしてください。
- 斑点米カメムシ類の水田畦畔での発生がやや多めとなっています。斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、イネ科雑草が実をつける前に畦畔・農道等の草刈りを行いましょう。また、斑点米カメムシ類の増殖源とならないよう、ほ場内にヒエ、ホタルイ等がみられる場合は除草を行いましょう。

コシヒカリの穂肥診断と穂肥施用のタイミング

分施肥体系

◆ 1回目

（出穂期18～15日前）

幼穂形成期に生育調査をして**診断**する

幼穂形成期の 草丈(cm)×葉色(SPAD値)	幼穂伸長期間の気象予報		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
2500未満	○△	◎	◎
2500～2800未満	×	×	○
2800以上	×	×	×△

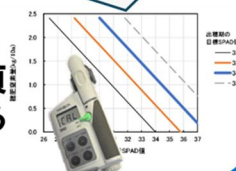


（葉色が淡ければ**増肥**もあり）

◆ 2回目

（出穂期10日前頃）

予測出穂期の10日前頃
葉色を測定して**診断**する



全量基肥施肥体系

化学肥料100%

有機50%入り肥料

◆ 穂肥の**不足分**を
追加する

◆ 出穂期3日前まで

登熟期間の高温が予想され葉色が淡い場合（葉色を測定して**診断**する）

分施肥体系

（出穂期6～3日前）

※3回目穂肥に相当

全量基肥施肥体系

（出穂期10～5日前頃）

肥料の種類と葉色
により**診断**し追加



熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。
- 1人で作業されている方に対しては、周囲からの積極的な声掛けをお願いします。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡を取り合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



7月～9月は“夏の熱中症等対策声かけ期間”

キャッチフレーズ:いのちをうばう、夏のひとり作業



農作業中の熱中症死亡事故の多くは1人作業で発生しています。

大切な人の命を守るため、
家族や地域で声をかけあいましょう!

出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より

○ 今後の管理対策発信予定日 7月22日・28日・31日、8月20日

〔補足資料〕

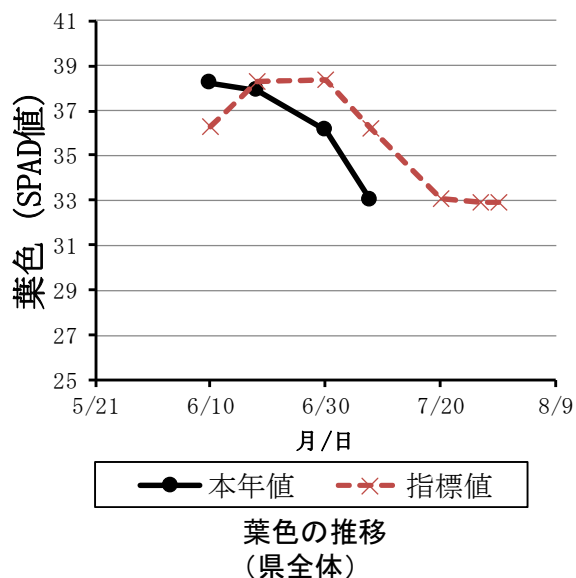
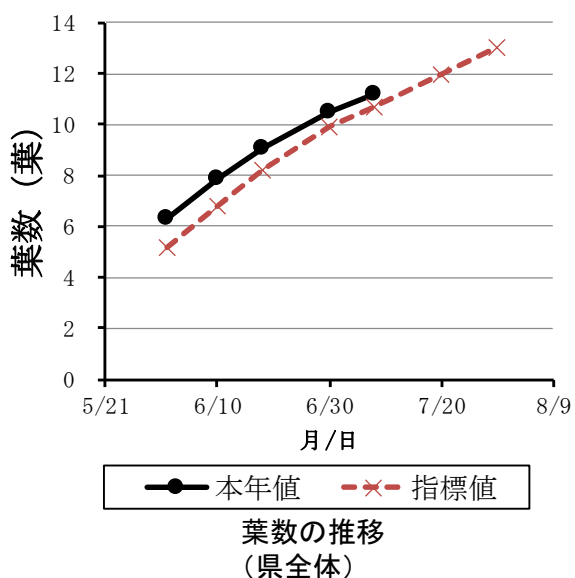
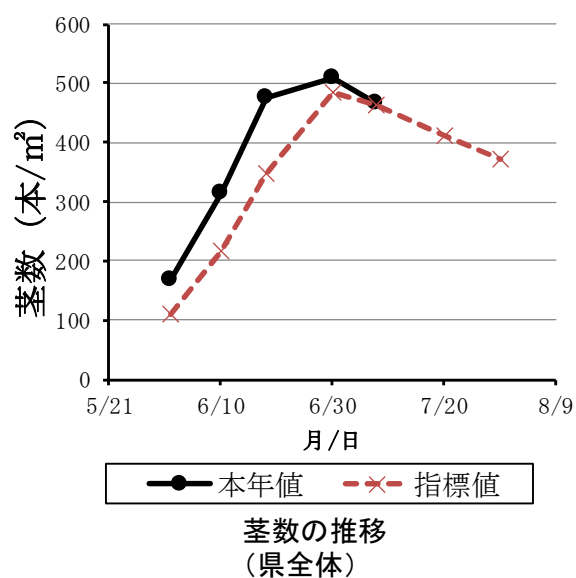
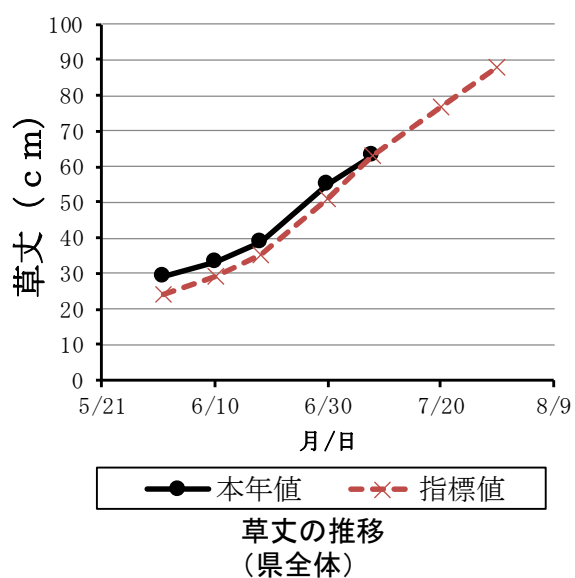
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月8日現在）

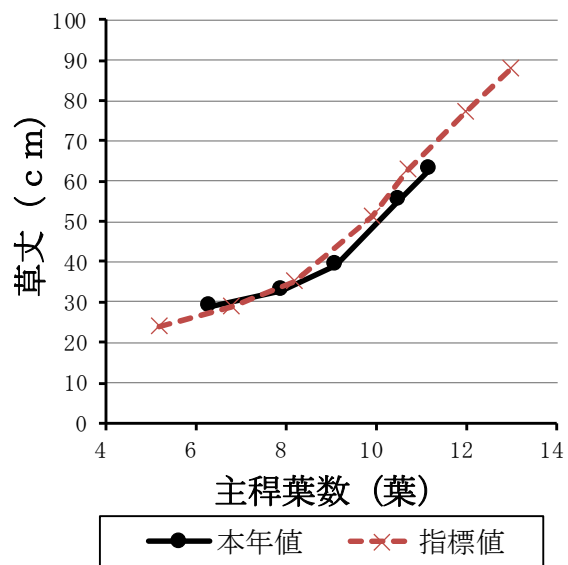
コシヒカリ

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」及び葉色は「淡い」です。

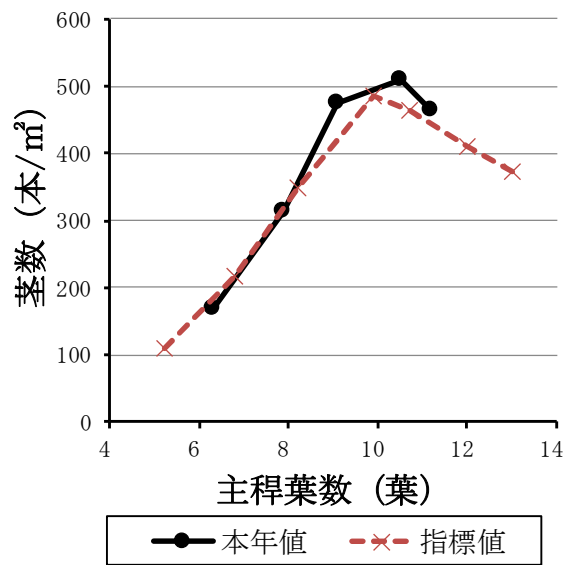
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	63 cm	63 cm	並	100%
茎数	465 本/㎡	463 本/㎡	並	100%
葉数	11.2 葉	10.7 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	33.0	36.2	淡い	-3.2

注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）

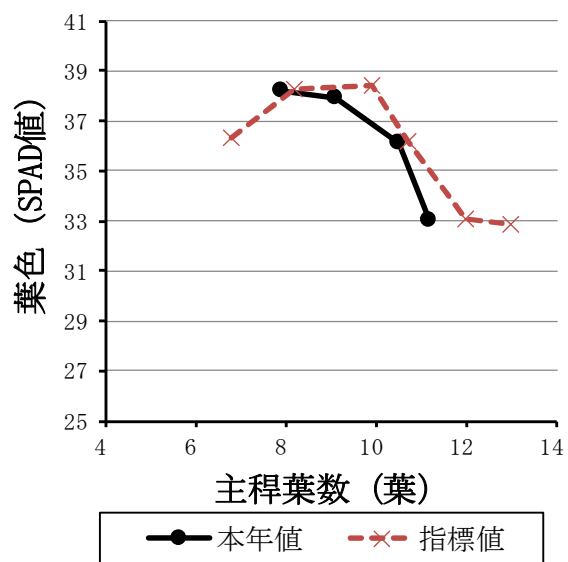




葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



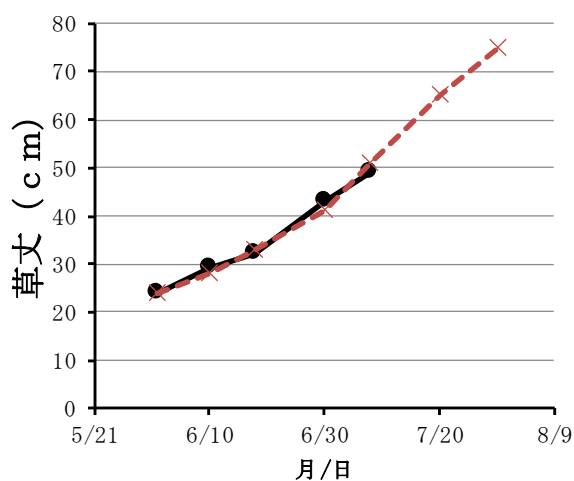
葉数と葉色
(県全体)

新 之 助

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」及び葉色は「やや淡い」です。

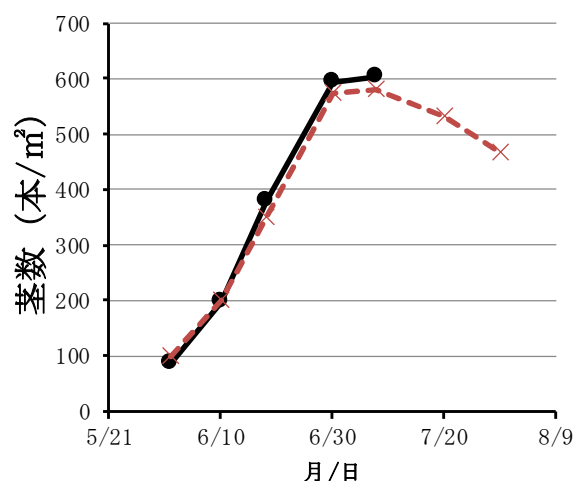
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	49 cm	51 cm	並	96%
茎数	604 本/㎡	582 本/㎡	並	104%
葉数	11.1 葉	11.0 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	34.9	36.3	やや淡い	-1.4

注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月19日、栽植密度16.1株/㎡）



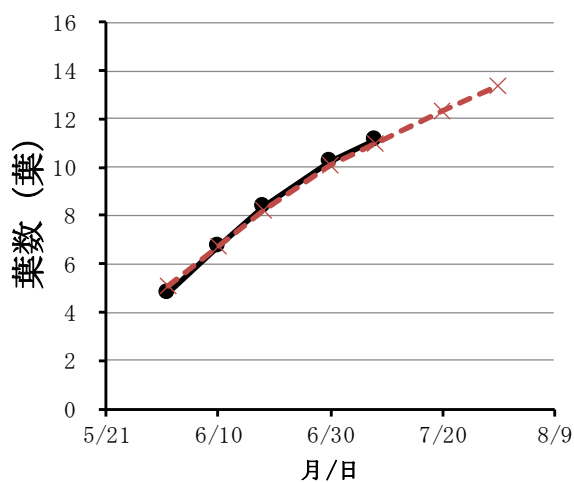
● 本年値 × 指標値

草丈の推移
(県全体)



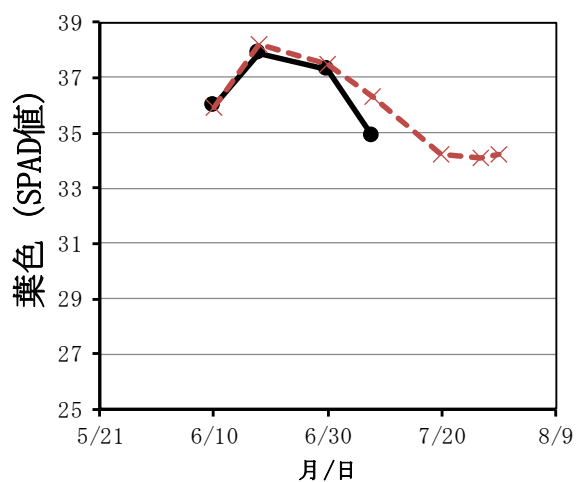
● 本年値 × 指標値

茎数の推移
(県全体)



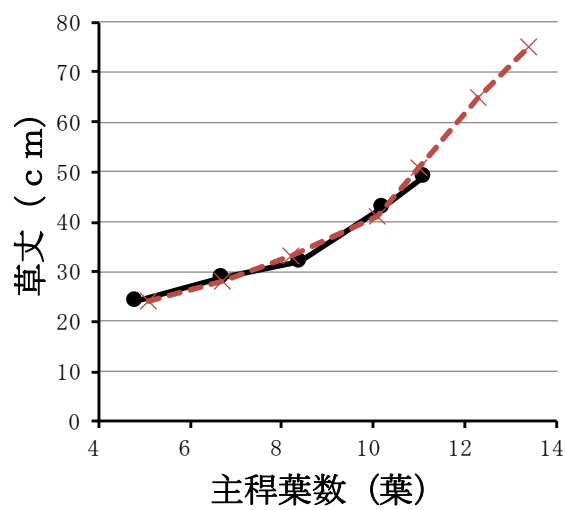
● 本年値 × 指標値

葉数の推移
(県全体)



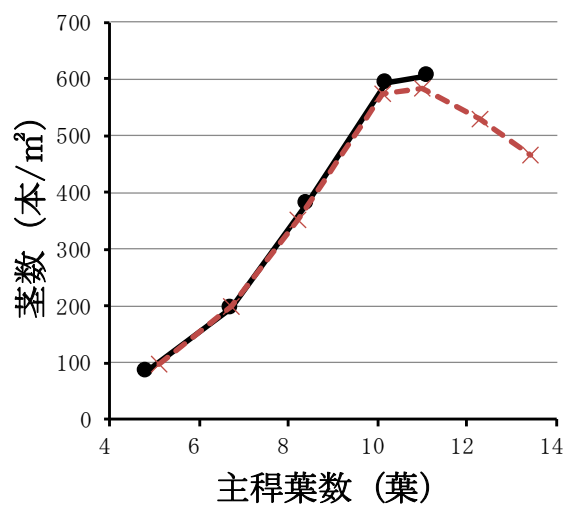
● 本年値 × 指標値

葉色の推移
(県全体)



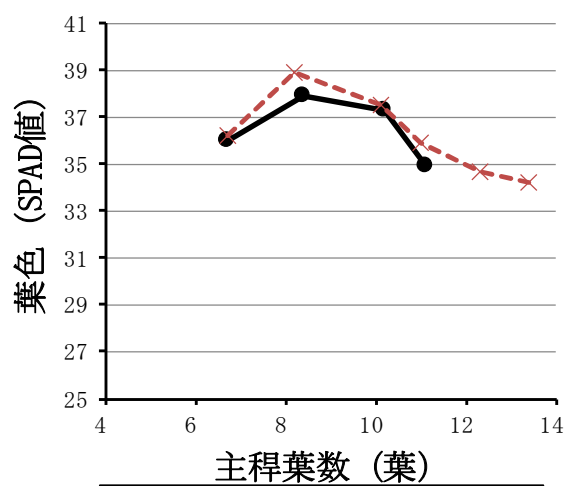
● 本年値 × 指標値

葉数と草丈
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉数と茎数
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉数と葉色
(県全体)

こしいぶき (参考)

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」及び葉色は「淡い」です。

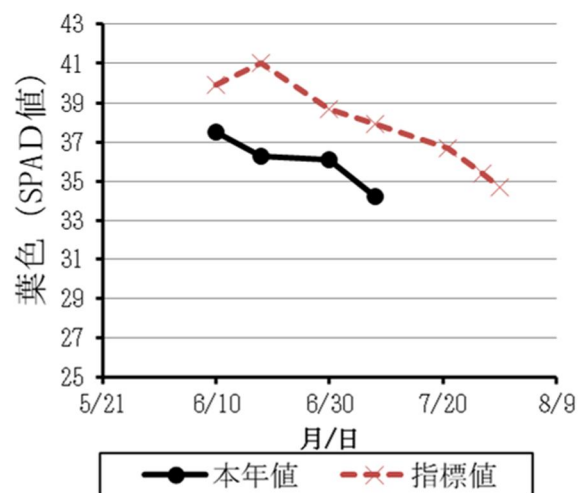
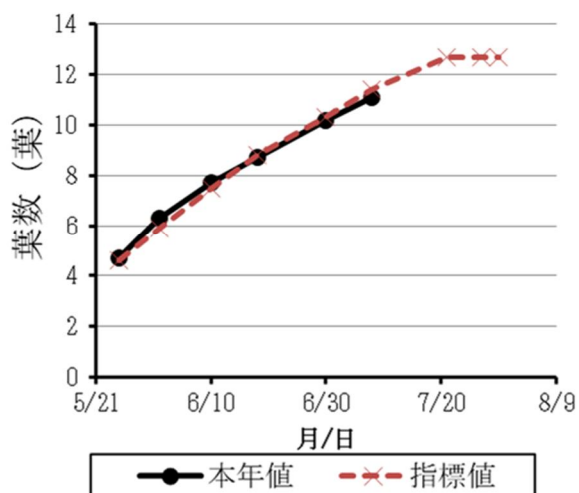
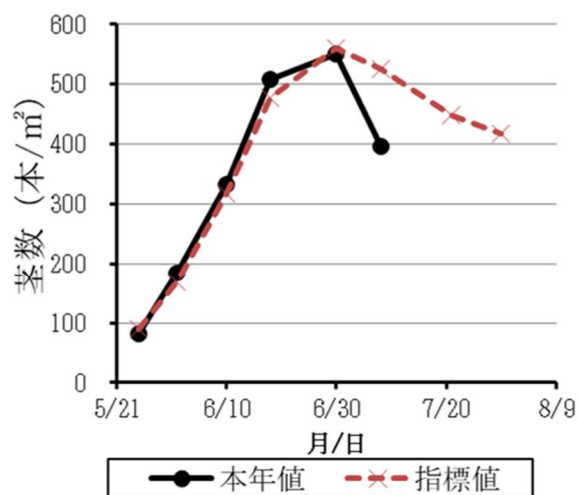
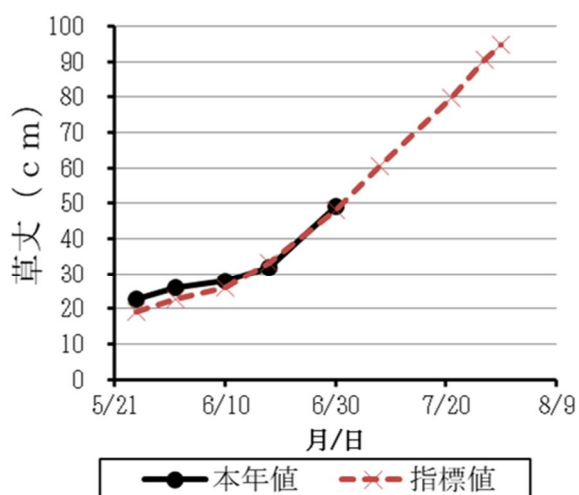
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	57 cm	61 cm	やや短い	94%
茎数	397 本/m ²	525 本/m ²	少ない	76%
葉数	11.1 葉	11.4 葉	並	-0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	34.2	37.9	淡い	-3.7

注1) 化学肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度 20.5 株/m²

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量 3.0kg/10a (1.5 kg×2 回分施：1 回目 7 月 3 日、2 回目 7 月 15 日頃予定)

注3) 幼穂形成期：7 月 3 日、出穂期：7 月 28 日の見込み

注4) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



2 出穂期の目標 SPAD 値に誘導するためのコシヒカリの2回目穂肥診断

登熟期間が高温になっても後期栄養を維持するため、分施肥体系2回目穂肥も穂肥診断を行います。穂肥診断により診断量が計画量よりも多く必要となったら、増肥しましょう。診断量が計画量よりも少ない場合は、計画量を施用しましょう。

2回目穂肥診断方法

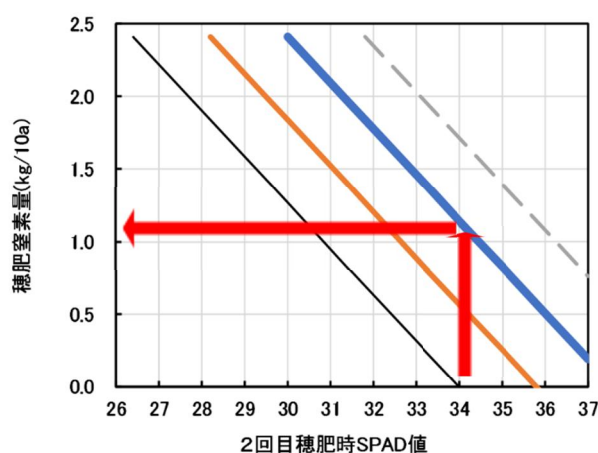
- 1 2回目穂肥時期（予想出穂期10日前）に葉色（SPAD）を測定する。



- 2 下記図1より、出穂期の SPAD 値が 32～34 となるように、2回目穂肥時期 SPAD 値から穂肥窒素量を読み取る。



- 3 診断結果＞計画量 → 診断結果量を施用
診断結果＜計画量 → 計画量を施用



出穂期の
目標SPAD値
— 32
— 33
— 34
— 35



高温予想だけど、
肥料は何キロ
くれたらいい？

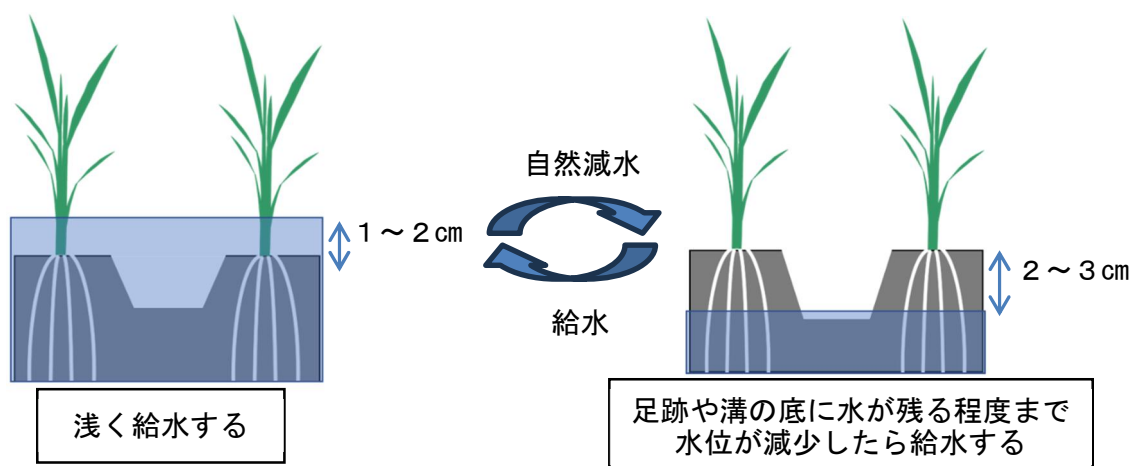
今年の夏は暑くな
りそうだから目標
SPAD 値は 34 に
しよう

- ・ 出穂期の目標 SPAD 値：34
 - ・ 2回目の穂肥時の SPAD 値：34
- ⇒ 穂肥窒素：約 1.2kg/10a

図1 出穂期の目標 SPAD 値に対応した2回目穂肥における SPAD 値と穂肥窒素量の関係

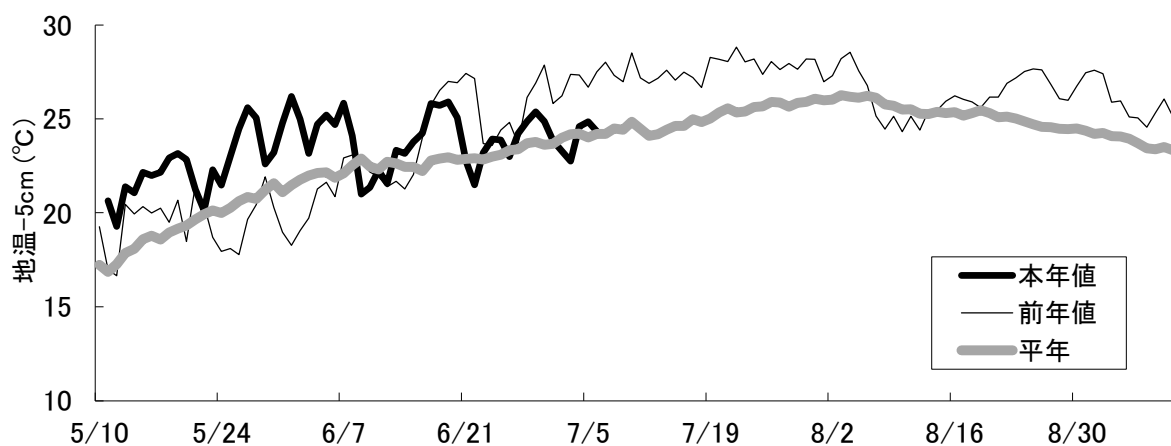
注 重回帰式 $Y = 1.749 \times X_1 + 0.555 \times X_2 + 13.134$ ($R^2 = 0.669$)、Y: 出穂期葉色 (SPAD 値)、X1: 2回目穂肥窒素量 (kg/10a)、X2: 2回目穂肥施用時の葉色 (SPAD 値)。

飽水管理のイメージ

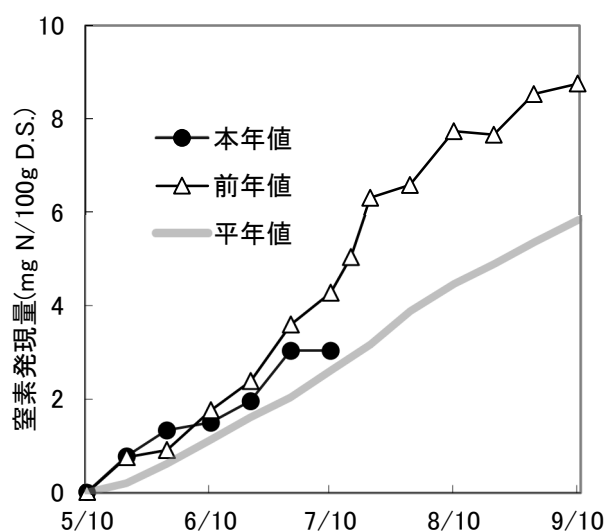


3 地力窒素の発現状況

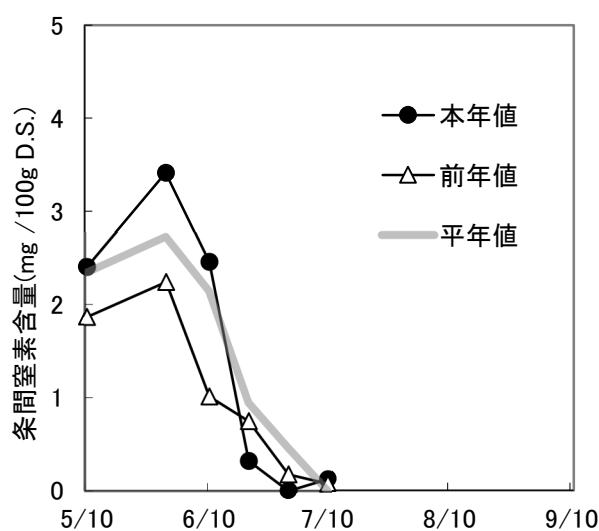
- 6/30～7/6 の期間の日平均地温は平年差+0.3℃で平年並みに推移しました。地力窒素発現量は、この期間は少なく、平年並みとなりました。条間窒素含量は平年並みに少ない状況です。



水田地温（5 cm 深）の推移
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(7月7日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
初期値=0、田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(7月7日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a

※「3 地力窒素の発現状況」は、今回で掲載終了となります。